

【東村】学校再編に係る地域説明会 概要

【日時】 2016年（平成28年）11月23日（水） 19:00～22:10

【場所】 東村小学校 体育館

【参加】 参加者 156人（傍聴5人を含む。）

行政 16人（教育委員会：教育次長，管理部長，学校教育部長
市民局 : まちづくり推進部長，松永支所長 他）

【内容】

- 1 開会
- 2 あいさつ（教育次長，東村学区まちづくり推進委員会委員長）
- 3 学校再編について（説明：学校再編推進室長）
 - ・学校再編の目的
 - ・これまでの保護者との意見交換の状況
 - ・再編にあたって
 - ①通学支援 ②通学時の安全確保 ③新しい学校生活に向けて
 - ④障がいのある児童への支援 ⑤特色ある教育活動の継承
- 4 意見交換（約150分）
- 5 閉会

地域・保護者から出された主な意見と回答

（学校再編に関すること）

○地域に寄り添った行政運営について，教育委員会はどのように考えているか。学校再編の行政との窓口は，東村学区まちづくり推進委員会が対応することを確認したい。住民の同意が得られなくても，教育委員会の判断で学校再編を実施するのか。

→（回答）

地域や保護者の話を丁寧に聞きながら意見交換をしていく。行政との窓口は，まちづくり推進委員会に一本化して対応する。再編の実施は，最終的には行政が，その責任で判断すべきと考えている。

○特認校として，または休校としてでも東村小学校を存続できないか。

→（回答）

学校再編は，今日の少子化を受け，地域の状況に鑑み，学校の配置を抜本的に見直すものであり，東村小学校を小規模特認校とすることや休校とすることは考えていない。

○再編後の東村小学校施設について，利活用及び維持管理はどうなるのか。施設の売却はしないで欲しい。

→（回答）

再編後の学校の利活用については，地域振興の視点を持って，地域の意向を聞く中で検討する。体育館やグラウンドは，地域活動に支障が出ないことを前提に，引き続き，地域で利用していただくよう考えており，避難場所等としても使用することから，維持管理は市が行う。校舎については，地域で利用する場合は，光熱水費その他の必要経費は地域に負担していただくことになる。

○通学路及び通学方法がどのようになるのか。安全対策はどうなるのか。また，通学に際し費用が生じた場合は，だれが負担するのか。

→（回答）

通学方法は，東村小学校と今津小学校を往復するスクールバスの運行を考えている。ルートや乗降場所は，地域や保護者の意見を聞いた上で決めていく。また，通学路は，登校班の集合場所からスクールバスの乗降場所までを通学路として指定する。通学路の安全確保は，引き続き，地域のご協力をいただきたいと思います。また，現在と同様に合同点検を行い，必要な対策を講

じる。スクールバスに係る費用は、市が負担する。

○学校再編の意義は、今津小学校と東村小学校が、対等に新しく小学校を作るという解釈でよいか。

→ (回答)

学校再編は、子どもたちに、対等な友だち関係の中で友だちの輪が広がること、また、一緒に学び育みたいという共通の思いを持って新たな学校生活を迎えてもらいたいという、こうした願いに基づくものであり、互いの教育内容、特色ある教育活動などを引き継いだ学校として新たにスタートしようとするものである。

○5、6年前から、学校再編の問題は話題になっていた。なぜ、その頃から、東村小学校の将来をどう考えるかという問題提起をしなかったのか。

→ (回答)

2012年(平成24年)から、学識経験者や市民の代表等で構成する小中一貫教育推進懇話会、学校教育環境検討委員会で、福山の教育、小中一貫教育をどうしていくのかということを協議し、意見をもらった。児童生徒が減り、学校の小規模化に歯止めがかからない中で、学校の配置を見直し、一定の規模を確保していくことが必要であるという結論に至った。子どもたちのために、より望ましい教育環境・教育内容を作っていくという視点で作った計画であり、行政として整理した考えを持って、住民の皆さんと意見の交換をさせていただきたいと考えており、ご理解いただきたい。

○学校再編の目的は、財政上の問題もあるのではないか。

→ (回答)

多くの学校施設の老朽化が進んでおり、近い将来、校舎等の改修や建替えの時期が集中することが見込まれている。少子化が進み、限られた予算の中で、将来に亘って望ましい教育環境をいかに維持するかといったことも大切な問題であると考えている。

○これまで再編をした県内の学校などの保護者の気持ちや、子どもたちの様子をデータや言葉で示してもらいたい。

→ (回答)

再編を行った自治体のアンケート等を、他市の状況として、後日、情報提供する。

(教育に関すること)

○再編後、適正規模の新しい環境になじめない子どもや、少人数を希望して他の学区から来ている子どもへの取組は、どのように考えているのか。不登校やいじめの不安がある。

→ (回答)

再編後の学校は1学級20人から30人程度で、教員の目もよく行き届く。今津小学校児童との事前交流をしっかりと行いながら、新しい環境に馴染んでいけるよう努める。再編時は、東村小学校の教員配置を出来るだけ引き継ぐなど、子どもたちに不安を感じさせないような配慮を行う。不登校やいじめに対しても、担任を中心に学校と家庭が連携しながら課題を早期に発見し、学習支援や相談対応を行う教員を配置するなどして、その解決を図る。

○スクールバスに乗れなかったとき通学路の指定があるのか。歩いて帰れないのであれば、家への連絡方法等はどうか。

→ (回答)

時間を守ることは教育のひとつであり、時間を守り登下校させるよう家庭とも協力関係の中で取り組むことが、まずは大切なことであると考えている。学校行事等で下校時間が遅れるときには、スクールバスの出発時間をそれに合わせる。

(まちづくりに関すること)

○過疎化が一層進行することを心配している。また、東村学区のまちづくりの組織・運営形態はどうか。行政の継続した対応をお願いする。

→ (回答)

地域まちづくりの活動は、これまでどおり現在の小学校区単位が基本と考えている。まちづくりに係る補助金も今までどおりで変更はない。また、まちづくりの充実発展のために地域が主体的に取り組まれている活動についても、これまでどおり行政として支援するとともに、より魅力ある地域にしていくため、ともに知恵を出し合いながら、取り組んでいきたい。

(その他)

○東村の高齢者が安心して地元で生活するには若者のサポートが不可欠である。

→ (回答)

再編後の学校では、「ふるさと学習」などを通じて、貢献意識を培い、地域を大事にする子どもを育てていきたい。